



各種業務に最も適した 外国為替データとは

業務と使用状況に最適な為替データを選ぶ方法







各種業務に最も適した 外国為替データとは

外国為替(FX)は24時間取引可能なグローバル市場です。1日の取引額は3兆ドルを超え、ニューヨーク証券取引所、ナスダック、東京証券取引所の合計売買代金をも上回っています。

FXは、これだけの市場規模を誇りながら、世界でどのような取引が行われているかが最も見えにくい市場です。株式市場とは異なり、FX市場は1か所に集中しておらず、しかも相対取引(OTC)であるため、買い手と売り手が合意する限り、異なる為替レートでの取引が同時に成立します。また、株式市場のような中央当局がないこともFX市場の不透明性につながっています。こうした背景が、市場の総意を適正に反映した為替レートを利用すること、すなわちそのようなデータを有する信頼のおける情報源を選定することが極めて重要である理由です。

FX市場は規模が巨大であり価格変動も激しいため、企業や機関にとって決して無視できない存在でありながら、その動きを予測するのは非常に困難です。世界の市場動向と為替変動は企業や機関の様々な業務に日々、時にはリアルタイムで影響を及ぼしています。

FXのデータセットには多くの種類があります。そうした中で、専門家はどのように一番適したデータを選ぶのでしょうか。このガイドブックでは、業務内容やビジネスニーズに基づき、最も適したFXのデータセットをご紹介します。

この電子書籍の内容

外国為替市場の動きは様々な形で多くの業務に 影響を与えます。正確な為替データを使用すること は、財務、プロダクト開発、市場心理分析など、す べての業務で非常に重要です。この電子書籍では 各専門業務に最適な為替データについてご説明し ます。

会計•財務

日常業務に使う日次平均レート(ERPその他の財務システムで便利に利用可能)

監査

綿密な監査に必要な時系列為替レート

ヘッジファンドやフィンテックの業務

リアルタイムに市場の状況を把握するためのティック データや取引プラットフォームの注文板情報

資金業務

リスクマネジメントのための各種金融データ

プロダクト管理

プロダクト、アプリ、ウェブサイトのための日次平均およびリアルタイム為替データ(主に価格の現地通貨表示に利用)

ソフトウェア開発

APIで提供されるリアルタイムおよび日次平均為替 レート (開発者による統合が容易)

電子書籍:各種業務に最も適した外国為替データとは



会計・財務

各国の現地法人、法令や基準、複数通貨の影 響といった要素のバランスを取ることは難しい作業 です。そうした複雑な環境下で業務を遂行する会 計十や財務・会計のプロフェッショナルは日常業務 に日次平均為替レートを用いています。このレート は単一取引日中の為替レートを平均した値であ り、ERPシステムその他の財務アプリケーションに容 易にインポートすることができます。

日次平均レートは財務報告、請求書作成、会 計、監査支援、会計帳簿の突合といった用途に 世界中で利用されています。状況によっては週 次、月次、四半期、年次などの平均が必要になる 場合もありますが、会計十の大半のニーズに適した 為替レートは日次平均レートです。また、国・地域 によっては、現地の法令により、市場レートではなく 中央銀行の公表レートを使用することが義務づけ られていることがあります。市場レートと中央銀行 公表レートの両方を提供できる提供者は少数で す。しかも、その多くは、データについて十分に理解 しないまま単純にデータをまとめているだけであった り、提供するデータを十分に管理できていなかったり します。財務のプロフェッショナルは、この点を非常に よく理解しており、為替のマーケットメーカーを兼ね た信頼できるデータ提供者を選ぶことが通常です。



を平均した値です。

電子書籍:各種業務に最も適した外国為替データとは - 会計



監查

監査業務は企業の記録や国際取引を過去にさかのぼって調査する業務です。綿密な監査を行うためには正確な時系列為替データを使いやすい形式(各種スプレッドシートが標準的)で入手することが必要です。

また、監査業務を行う会計士は企業の事業所を訪問するために世界各地を移動するため、場所と時間を選ばずに時系列為替レートを照会できるクラウドベースのフレキシブルなツールが必要です。データがダウンロードできることも重要であり、複数通貨の同時比較、買値・売値・中値など必要な種類のレートの選択、特定の中央銀行の公表レートの使用などがカスタマイズにより可能であることも求められます。

監査のプロフェッショナルは企業の財務報告や税務 申告の監査を行う際に時系列為替レートを使用 します。為替市場は相対取引であるため、会計士 が為替に関係する取引や報告について監査を行う 際には、故意や過誤による見落とし、不整合、単 純ミスなどをチェックします。信頼できるフレキシブル なデータやツールを利用すれば、このような作業は 容易になります。



時系列為替レートは ダウンロードや複数通貨 の同時比較が可能で なければなりません。



ヘッジファンドやフィンテック

の業務

ヘッジファンドのマネージャーやフィンテックの責任者は為替のティックデータや取引プラットフォームの注文板を利用してビッグデータの高度な分析を行い、あるいは高頻度取引、アルゴリズム取引、市場モデル開発、双方向的チャート作成、金融ティッカー表示、バックテスト、為替リスク管理などに必要な調査研究を行います。

ティックデータは為替レートが変化するたびに更新されます。更新は1秒間に何度も行われる場合があり、各取引日ごとに何百万件もの価格推移を集積した巨大なデータ群を形成します。この種類のデータは為替の状況をリアルタイムで把握するために必要になります。重要となるのは、すべての時点で市場を全体的かつリアルタイムに把握できる実際の市場参加者からデータを取得することであり、OANDAはその一つです。

ティックデータの代わりに取引プラットフォームが提供する注文板情報を利用して為替取引の未決済注文(売りと買いの両方)を把握することも、一定期間(一般的には過去24時間)のポジション(持ち高)の状況を知ることもできます。未決済注文は、市場参加者の期待水準を示していると考えられ、当面の取引レンジの形成にも関係します。ポジションは、価格の変化に対して市場がどう反応するかを理解する材料になり、潜在的な買い圧力や売り圧力を生む要因としても重要です。注文板のデータは統計として非常に優れており、為替市場の市場心理を推測する最高の材料となります。

重要となるのは、市場をリアルタイムに把握できる実際の市場参加者からデータを取得することです。



電子書籍:各種業務に最も適した外国為替データとは - ヘッジファンドとフィンテック



資金業務

現在の経済環境下で企業財務のリスクや国際的な資金移動を管理することは容易ではありません。

多通貨のリスク管理が資金業務の中で比較的容易だった時代もありましたが、変動性の高い市場環境が続いていることにより状況は一変しています。現在ではCEO、CFO、株主が通貨の管理に大きな関心を払うようになりました。また、規制強化の動きや、資金を貯め込み過ぎることへの批判の高まりもあり、資金業務のスペシャリストは厳しい目で見られやすい状況になっています。そのため、多通貨の資金管理の専門家である財務担当者は、リスク管理、為替エクスポージャーの集約、為替損益の管理、ヘッジポジションとヘッジ比率の管理など、様々な業務の各々に適したデータを必要としています。





必要となる<mark>為替その他のデータ</mark>は使用例により異なりますが、一般には次のようなものがあります。

- 日次平均為替レート
- 中央銀行公表為替レート
- リアルタイム (スポット) 為替レート
- フォワード (先渡し) レート
- 金利(LIBOR、Euriborなど)と スワップレート
- イールドカーブ

このように、使用するデータの種類が多岐にわたるため自動化の導入は不可欠となります。財務・資金のプロフェッショナルが行う標準的な業務は、ほぼ完全に自動化された環境へと移行しています。APIによるデータ配信は最新のデータを中断なく取得することを可能にし、ERPや経理システムにデータを直接インポートできる柔軟性を提供します。また、データの正確性や配信の信頼性も確保されます。



ソフトウェア開発

動きの速いグローバルな市場では、最新の情報を信頼できる確実な形で取得することが最も重要です。これは個人向け・企業向けのアプリケーション両方に当てはまります。eコマースサイト、個人向けバンキングアプリ、ベンダー管理システムなどの開発者には、正確な為替レート換算や為替取引機能を実装することが求められています。開発者は、グローバルなベストプラクティスへの対応として、アプリ、価格エンジン、ウェブサイトで利用されるプロダクトやソフトウェアに多通貨機能を搭載するようになっています。こうした開発者が通常使用するのはリアルタイムレートですが、使用例によっては日次平均レートが必要とされます。

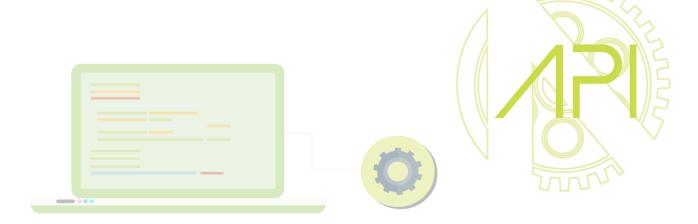
リアルタイムレート

通常はRESTful APIにより配信されるデータです。 RESTful APIは、JSON、XML、CSVなど、開発者のニーズに最も適した形式でデータを提供できます。リアルタイムレートは数秒(通常は5秒)間隔で更新され、デジタルプロダクト、アプリ、ウェブサイトなどで利用されます。

日次平均レート

リアルタイムレートと同じく、主にRESTful APIにより配信されます。ERP、請求書システム、会計システムへの自動インポートにより会計・財務部門に為替レートを提供するといった用途が一般的です。

ここでのリスクは、コストを引き下げる目的で見かけ上は開発が容易なソリューションが採用され、データの正確性が保証されないことです。開発の容易さとデータの正確性は両方が必要であり、その一方でも欠ければプロダクトやサービスの品質が犠牲になり、ひいては企業の利益に悪影響を与えることになります。また、信頼できるインフラを通じて、容易に統合できる形で正確なデータを提供できる提供者から為替データを入手することが重要です。

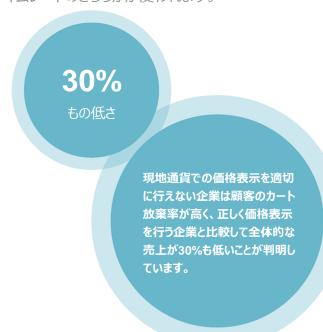




プロダクト管理

プロダクト管理業務では、プロダクト、アプリ、ウェブ サイトに埋め込む形で日次平均レートまたはリアル タイムレートが使用されます。主な使用例は価格 の現地通貨表示です。

日次平均レートとリアルタイムレートのどちらが選択されるかは、プロダクトやウェブサイトの内容のほか、市場の動きにどれほど敏感にしておく必要があるかによって、決まります。たとえば、旅行予約サイトでは、グローバルな価格提示や通貨換算のために日次平均レートが使われる場合があります。また、金融関係のウェブサイトは、為替レートのトレンドの表示やインタラクティブなチャート提供のために数秒間隔で更新されるリアルタイムレートを使用することがあります。プロダクト管理業務においてプロダクト開発のために為替レートが必要となる例は非常に多く、そのほとんどの場合に日次平均レートかリアルタイムレートのどちらかが使われます。





価格の現地通貨表示

プロダクト管理業務に為替データが必要となる主な理由の一つは、グローバルな取引形態の増加により為替データがeコマースプラットフォームの重要な要素となっているためです。Profitwellが行った研究によると、現地通貨での価格表示を適切に行えない企業は顧客のカート放棄率(ショッピングカートに商品を追加しただけで実際には購入しない顧客の割合)が高く、正しく価格表示を行う企業と比較して全体的な売上が30%も低いことが判明しています。商品やサービスを現地通貨で適切に表示することは、売上の増加だけでなくユーザーエクスペリエンスの質の向上にもつながり、購入率や再訪率が上昇する可能性が高まります。

プロブェッショナルにとっては、システムの信頼性が極めて重要になります。信頼性の低い無名な業者からデータを入手したり、データの正確性や安定供給を犠牲にするような質の低い為替ソリューションを自社システムに統合したりするのはビジネスとして危険です。情報ベンダーが保有するテクノロジー、サポートするプラットフォーム、全体的な安定度について慎重に判断することが重要でしょう。